

慶應義塾大学大学院生らの海自厚木航空基地研修を支援

神奈川地方協力本部藤沢募集案内所（所長 高津准陸尉）は、1月19日（金）、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科（湘南藤沢キャンパス）の教授と院生ら22名の海自厚木航空基地研修を支援した。

基地では、概要説明を受けた後、広報資料館を見学。参加者は、厚木基地は日本の海上自衛隊と米海軍が共同使用していることを知ると、その現場に自分たちが今立っていることに驚いている様子だった。

その後、ターミナルビル屋上から航空機が離着陸する様子を見学し、格納庫では、パイロットの案内によりP-1哨戒機、SH-60K哨戒ヘリを見学した。

隊員は「厚木基地は海自航空部隊の総司令部である航空集団司令部をはじめ、海上防衛の第一線において活躍する航空部隊が所属し、日本の周辺海域を常時警戒監視している」と説明し、それを聞いた院生は「基地の施設や隊員の方と接するのは、国防の現場に触れる貴重な経験」と話し、その後も隊員に積極的に質問していた。

隊員食堂での体験喫食では、隊員らと共にカレーを味わい、参加者は「海上自衛隊を道路の一つとして考えてみたい」「予備自衛官補から予備自衛官になって、自衛隊に貢献するとともに自己を向上させたい」「航空機の操縦席に座ることができ感動した」などと感想を述べ、充実した1日を過ごすことができた様子だった。

藤沢募集案内所は「今後も積極的に部隊研修の支援を行い、自衛隊への理解促進と募集成果の拡大につなげていきたい」としている。



SH-60K哨戒ヘリの機内外を見学する参加者たち



広報資料館を見学する参加者たち



厚木航空基地の概要説明を受ける参加者たち

「合格者のつどい」で入隊予定者たちが互いに交流を深める

神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 日比野准陸尉）は、1月21日（日）、神奈川地方協力本部内にて、横浜中央自衛官募集相談委員会とともに「合格者のつどい」を開催した。

当日は、陸海空の自衛官候補生、一般曹候補生試験に合格し、入隊を控える高校生から社会人の32名が参加し、齋藤募集相談委員会会長の合格祝いの言葉に始まり、日比野所長は、自身の経験をもとに隊内生活のアドバイスなどを話した。

その後、広報官手作りの具いっばいの豚汁が振る舞われ、入隊予定者たちは、入隊案内や志願票の提出、試験などでこれまでお世話になった広報官から豚汁を受け取るなど、笑顔で言葉を交わしていた。

また、この日初めて会う志を同じくする仲間と入隊を控えて「運動しておこつかな」「おしゃれとか、髪型とか今から楽しみたい」などと話し交流を深めていた。

横浜中央募集案内所は、同期となる仲間たちとの交流の場を設けることで、入隊までの間の不安を払拭し、絆を深めることができた。引き続き、合格者たちを入隊まで導いていきたいとしている。



にぎやかな話し声に会場を訪れ合格者を激励する神奈川地本長山野1海佐



入隊を控えて話が弾む合格者たち



交流を深める合格者たち